

浄敬寺だより

じょうきよとうじ

発行日 平成三十年八月十三日 第三十一号

【法語】

しょうじしやうひ

小慈小悲もなき身にて

み

うじやうりやく

有情利益はおもうまじ

によらい がんせん

如来の願船いまさずは

くかい

苦界をいかでかわたるべき

親鸞聖人『正像末和讃』より「愚禿悲歎述懐和讃」

【現代語意識・解説】

「無償の慈悲などかけることができないうが身ですから、簡単に救われることなど望めません。私たちが丸ごと救ってくださる如来の深い願いや慈悲がなければ、この悲しみや苦しみの絶えない娑婆からどうやって救われることができるでしょうか」

西日本豪雨で大変な水害が起きた数日後、沖縄に台風が接近していました。「この台風が本土には行かんで欲しい。今、本土の人達は水害で大変だろうから…」と、船のロープを堤防に括りながらインタビューに答える方がテレビに映し出されました。戦後、私たちは基地のほとんどを事実上沖縄に押し付けてきました。自分の傲慢さを知らされるときにも、多くの犠牲者を生んでしまった悲しみを抱えながらも、「他者を許す」ということをしてきた方々の懐の深さを思いました。



報恩講お引き上げ

2018 年前半 写真展



浄敬寺 前住職・前坊守年忌法要



真宗本廟 春の法要



夏休みおたのしみ会(8/5)



盆参会



夏の法話会

☆巻頭法話「両親の法要に思う」☆

昨年とは打って変わって、七月早々の梅雨明け。西日本を襲った豪雨。そして記憶に無いほどの猛暑。何かもが異常と思われる日本です。この原稿を書いている七月下旬は、全国各地で気温が四十度に届くという状況ですが、海が近い柏崎は浜風のお陰でそれでも恵まれていると言えるのかも知れません。こちらの雨を全部持っていたのではないかと思われる西日本豪雨では、多くの方々が犠牲になりました。心よりお悔やみ申し上げます。人間の智恵の及ばない自然の力を、改めて知らされると同時に、自然と調和して生きるしかない人間の姿を教えられた気がしました。一日も早い復興を願いたいと思います。被災地の方々の苦しみや悲しみに心を一つにする事は難しいことですが、何か思いの一端をと、盆内のお参り以後本堂に義援金箱を設置しました。頂いた義援金は本山を通して被災地に届けます。どうか協力をお願い致します。

梅雨明け前の六月十七日に、先代住職二十三回忌、前坊守七回忌法要を勤めさせていただきました。総代様、世話人様にはお忙しいところおいでいただき、ご焼香賜りましたことに感謝申し上げます。法要を勤めるに当たり、特に先代住職は年月も経っているため、改めて生い立ちなどを確認してみました。六歳で生母

と死に別れ、継母に育てられたこと。二十二歳で父親（私の祖父）が亡くなり早々に住職にならざるを得なかったという事は口伝に聞いてはおりましたが、改めて自分の身に置き換えてみますと、なかなか大変な人生だったと思わされました。病を得て致し方なかったとは言え、晩年のかかりの時間を病院で過ごさざるを得なかったことが残念に思われますが、戦争という大変な時代を経て、住職として五十年という長きに亘り浄敬寺を守り、法儀を相続してきてくれたことには改めて感謝せねばならないと感じました。

法要を勤めるということが、言うまでもなく亡き方をお弔いするということが第一かと思えますが、「弔う」という言葉は「訪う」が語源になっています。即ち法要を通して亡き方を「訪ねていく」ということが願われていることかと思えます。私ども浄土真宗では、亡き方は「浄土に還られた」といただきます。ただ単に「死んだ」という言い方ではなく、「浄土に還られた」といただくことに深い意味があるかと思えます。「浄土に還る」とは「仏様の国に還る」ということです。「死んだ」という言い方は冷たく、残された私たちとの関係性はぷつりと断ち切られますが、浄土に還り仏と成られたとただだければ、そこからは仏様と私との関係が始まります。ご法要とは、仏様となられた亡き方を訪ねていく仏事です。亡き方の遺徳を偲び、感謝

するとともに、亡き方を通して私まで届けられた「いのち」の重さや深さを改めて思わせていただきたいものです。「前にさき生まれんものは 後を導き 後に生まれんひとは、前をとぶらえ」この度の両親の法要というご縁を通じ、親鸞聖人の教行信証に引用されているお言葉を改めて味合わせていただいたところでした。

合掌

(住 職)



☆庫裡便り (坊 守)

◎同朋会館リニューアル

四月十一日と十三日・七月十七と十八日と、本山の坊守研修会・会議に行ってきました。皆様の御懇志で研修宿泊施設の和敬堂(わきようどう)が新築、同朋会館がリニューアルされてとても使いやすくなりました。是非皆さんと一緒に・・・と願いながら見学してまいりました。

◎長岡公演ではありがとうございました

四月二十七日、二女千晶が所属する文学座の「牡丹燈籠」の公演が長岡のリリックホールでありました。柏崎から御門徒の方々、知人が百名ほど行ってくださり感謝申し上げます。娘は幽霊役と女中役の二役を演じ、カーテンコールでは挨拶もさせていただきました。七月三日に全国五十四回の公演を無事終えたそうです。市の広報では市長さんのコラムにも載せていただきました。応援ありがとうございました。

◎御門徒今井様が発刊された本のこと

長い間寺の総代、世話人を務めていただいた今井長栄さんが、「追憶 我が家の歩み農業と共にーつれづれ思い 老を生きる」の本を発刊されました。九十六歳のご高齢にもかかわらず、その思考力と記憶力に頭が下りません。今井家は浄敬寺の開基と一緒に宮ノ腰(今の金沢市内)から柏崎に移り住んだといわれ、寺と深い関わりがありました。今井さんは真面目に地域の農業発展にご尽力された方ですが、若い頃から仏法を聴聞され、お念仏を相続されてこられました。平成十九年に作られた句や詩の中には、妻ノりさんと一緒に参加してくださった「正信偈をよむ会」の事が何篇もありました。

○寺の松 幾百万人の人に逢い ○声揃い 御堂に満つる正信偈
○生かされて 浮世のつとめ終いぬれば 法の光に導かれゆく

(長栄)

寄贈していただいた本が寺にありますのでお読みになりませんか。

◎お朝事

夏休み初日から本堂に元気な三人男児の朝のお勤めの声が響いています。有り難くて有り難くて、ナムアマダブツです。

☆二〇一八年前半を振り返って

◎春彼岸（お中日三月二十日）法話 住職

彼岸（浄土）を知ることが無かったら、私達は自分が迷っていないとは到底思わないでしょう。人間の世界に争いごとが絶えないのは、この「私は正しい」という自己中心の見方しか出来ない心にある。彼岸はそんな私達の迷いの心をありのままに映し出す鏡。その鏡に映し出されることによって、愚かな我が身が知らされるのです。住職の法話に続き、祖父江佳乃師の節談説法「善鸞義絶」のDVDを鑑賞しました。

◎春の法要参拝と京都の桜を観る旅（四月一〜三日）

一日午後からの音楽法要を参詣し、夕食後は東寺の夜桜見学に出掛けました。境内の桜は満開、壮大な五重の塔と桜のライトアップに一同感激でした。二日目は二条城と嵐山大覚寺、東山青龍殿を通り琵琶湖畔のホテルに宿泊。三日目は歴史ある長浜別院と彦根城とその桜を見学し、車中からの桜を見学しながら帰路に。天候にも恵まれ、大変楽しい旅行となりました。また京都本山の旅を計画の際は是非皆様ご参加ください。（坊守・記）

◎報恩講お引き上げ（五月十八日）絵解き法話 今泉 温資 師

今泉先生の絵解き法話に続き、勤行、おときがありました。宗祖親鸞聖人のご命日のお勤めの報恩講は、寺院の年中行事の中でも重きをおく行事で、この日は五洵で念仏和讃をお勤めします。法中寺院の御住職方の声と共に、御門徒の皆様の同朋唱和の声が本堂に響きました。



◎浄敬寺年忌法要（六月十七）法話講師 多田 誓 師

前住職、前坊守の法要を勤めました。以前の法要では前坊守の晩年の様子（介護のこと、命終のこと）が思い出されていたのですが、七回忌の今回の法要では不思議なことに一緒に過ごした元氣だった日々のことが懐かしく思い出されました。お浄土に還った二人からの呼びかけを確認できた法要になりました。（坊守・記）

◎夏の法話会（六月二十五日）法話 草間 法照 師

先生が昨年入院された際、「お葬儀」という儀式について色々と考えさせられたことをお話しくださいました。長野ではついに、ドライブスルーの葬儀場ができたこととテレビで放映され、お葬儀の簡略化もここまで来てしまったか、と考えさせられたそうです。亡き人とのご縁を大切にしないお葬儀の根本は、「生きている人の方が大事、死んでしまえば終わり」という経済、生産性を重視する現代人の意識がお葬儀の簡略化に繋がっていると指摘されました。そういう考えに至ってしまった原因として、「往生する時」ということが明確でないことが考えられます。

お葬儀とは、亡くなった人と自分、参列者ともに助かりたい、という自利利他円満の願いを持ち、亡き人を然るべきところへ申し渡す場であると明確に言うべきだとお話しされました。（当院・記）

◎盆参会（七月十四・十五日）法話 住職・当院

十四日は当院から十五日は住職からの法話の後、勤行・おときがありました。猛暑日でしたが、多くの方からお参りいただきました。



お盆を迎えることは、亡き方々をお参りする中で、自らの還る世界をはっきりさせていただくこと。還る世界がはっきり分かれば、今を安心して生きていけるのではないのでしょうか。叶わぬ都合の良い願いに振り回されず、一日一日を重く、深く受け止めて生きていくことが願われています。ご縁のある方とぜひお参りください。

◎夏のおたのしみ会（八月五日）

本堂落慶法要の稚児行列を歩いてくれたお子様方を対象にスタートした夏のお楽しみ会、御門徒の枠を越え、町内・ご近所の皆様や三兄弟のお友達の参加もいただきながら、継続してきます。初回以来二十五年以上の歴史の定番メニュー「やきそば」が、「カレーライス」に変わりました。お味はいかがでしたか？

今年大人と子ども合わせて八十名を越える方からおいでいただきました。おつとめに始まり、境内でのゲームやカレーライスパーティー、ミニコンサート、きもだめし、花火大会…と、盛り沢山の楽しい時間を過ごしました。

秋には、初の「お茶席体験」を開催いたしますので、こちらもぜひご参加ください。



当院撮影

中村進四郎氏
撮影

お楽しみ会にご参加いただいた皆様、ご協力いただいたスタッフの皆様、ありがとうございました。「お寺って楽しいところ」、「人と人、私と先祖、いのちのつながりを再発見できる場所」とのメッセージを、今後とも発信し続けたいと思います。

☆諸連絡

◎プロジェクターとスクリーン

お賽銭よりプロジェクターとスクリーンを購入させていただきました。お彼岸にはプロジェクターで投影し、DVD鑑賞をしました。今後も有意義に使わせていただきます。有難うございました。



☆二〇一八年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・ 午前六時より 本堂にてお朝事

九月八日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月二十～二十六日 秋彼岸

* お中日 二十三日（秋分の日）

午前十時半～法話勤行後おとぎ

九月二十三日（秋分の日）「音市場」会場

九月二十四日（月・振休）お寺でお茶席体験

① 幼児～小学六年生の部 十七時～

② 中学生～大人の部 十八時半～

十月十日（水） 坊守女性研修会 講師 祖父江佳乃師

午後一時半～ 会場 聞光寺

十月十三日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 期間中の十組団体参拝に、ぜひご参加ください。

十一月十日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月十三～十四日（火～水） 有縁講（宿泊・赤倉ホテル）

十一月二十五日（日） しまい講

* 午前十時半より法話・勤行・おとぎ

（別紙・行事予定表の日程から変更になります）

十二月十六日（日）

年末法話会（ふれあい講座） 午後一時半～三時半

「いきいきとした老後を過ごすために」

講師 藤原 正博氏（柏崎総合医療センター病院長）

二〇一九年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

☆ご案内

☆お寺でお茶席体験

十五夜の晩に美味しい和菓子とお抹茶をいかがですか。

お茶席でのちよつとした作法が分かれば、旅行先でも気軽に
にお茶席を楽しめるのではないのでしょうか。お子さんお孫
さんと一緒にぜひどうぞ。

* 日時 九月二十四日（月・振休）

① 幼児～小学六年生の部 十七時～

② 中学生～大人の部 十八時半～

* 参加費 300円

* お申し込みはお電話またはEメールにて

浄敬寺 0257-22-2481

メール jyokyouji222481shinshu@gmail.com



☆第三十一回 晴香の「真宗門徒のママ知識」

ちよっころ
解説!

今回のテーマは

【本山・真宗本廟の法要】です。

四月一〜三日、桜満開の京都・東本願寺で厳修される春の法要。今年
は浄敬寺団体参拝で、浄敬寺御門徒の皆様と住職・坊守とでお参りさせ
ていただきました。思い出の写真と共に解説いたします。

☆春と秋の法要

私たち真宗門徒の本山・東本願寺の年中行事として、春と秋に大きな
法要があります。秋の法要といえば『報恩講』ほうおんこう。これは親鸞聖人のご命日
である十一月二十八日まんざをご満座として、同月二十一日〜一週間の法要が
厳修ごんしゅうされます。今年お参りした春の法要は、四月一〜三日に執り行われ
ます。

☆春の法要の内容

四月一日、親鸞聖人御誕生の日に法要が始まります。一日は師徳奉讃
法要、『親鸞聖人御誕生会』の記念講演、そして御誕生会の法要が音楽法
要で勤まります。二日には全戦没者追弔法会、三日には相続講員・帰敬式
受式者の物故者追弔会ついでしよえが執り行われます。

この度の旅行では、池田勇諦師の記念講演を拝聴し、
親鸞聖人御誕生会法要を参詣しました。伝統的な声明や
雅楽に変わり、混声合唱やエレクトーンを用いてお勤め
します。(法要中の写真は東本願寺写真日記より)



*会という字は、仏教用語では「え」とよみます。法が説かれる集いの
意味です。

*相続講員とは、念仏相続と真宗本廟の維持を願って寄進された方、亡
くなられた際に院号法名を授与されている方が該当します。

☆表白に注目〜!

法要の際には、その法要の主旨を明白にするための主旨文を拝読しま
す。これが表白です。表白は葬儀でも年忌法事でも必ず、その法要の主
旨に適したものを導師が拝読します。表白をしっかりと聞き取ると、仏
事がぐっと身近になるかと思えます。

誕生会の表白も大変深い内容ですが、ぜひ読んでいただきたいのは、
二日の全戦没者追弔法会の表白です。本堂に掲示しますのでぜひご覧く
ださい。



4/8の花祭りも間近
誕生仏に灌仏



らんおん
鸞恩くんに
会えました



本山前にて
よい天気でした



☆桜満開春の京都



大谷祖廟↑
円山公園



桜満開
二条城→
彦根城



涉成園(枳殻邸)→
長浜別院大通寺



見送り隊
「いってらっしゃーい」

『行儀』

子どもも少し大きくなってきたこともあり、つい「行儀よくしなさい」と言ってしまう機会が多くなりました。私も親に散々言われた嫌な思い出があります。分かっていながらも、言わずにはおれないくらい、力の有り余った子どもたちが騒いでいるという現状です。

そもそも行儀とは、僧侶の戒律の一つで、僧侶の行為や動作の作法を差す言葉とあります。親鸞聖人も行儀を正した僧侶の姿であることに二十年間励まれました。ですが、行儀よくしても悟りを得ることができない、と大変悩まれたそうです。そして、そんな人間だからこそ南無阿弥陀仏とお念仏するしかないのです、と話す法然上人の教えを聞くようになりました。

親鸞聖人は「ただ念仏申すべき」と言われています。ですが、親としては、やはり行儀よくして欲しいものです。

(当院)



その調子♪



三条別院定例法話五〜七月を担当
柏崎からの応援団とともに

☆編集を終えて：

七月、オウム真理教の元死刑囚の方々に死刑が執行されました。地下鉄サリン事件はじめ、この教団によって被害を受けた方々のことを思うと、犯した罪は許されることではありませんし、これも一つの結果なのかもしれませんが、ここには何とも釈然としない様々な問題が絡んでいます。「死刑制度」の問題もありますが、何故あのような優秀な若者が、カルト教団にはまってしまうのか。また、地下鉄サリン事件後に生まれた若い世代にとってはオウムに後継団体が存在することも周知されていないのかもしれませんが、何より、「カルト」の定義もあやふやで、正直分からないというのが本音ではないでしょうか。「カルト」と定義される社会的問題を抱える団体の勧誘は、団体名や個人名を名乗らず、大学のサークル、趣味のサークルが隠れ蓑になっている場合も多くあるそうです。宗教は人との関係を絶ったり、自他の存在を否定したりするものでは決してありません。「カルト」とは何か、お子様やお孫様と一度話してみてはいかがでしょう？読みやすく編集されたパンフレットを取り寄せてあります。ぜひお盆参りの機会にお持ちください。

(晴香)

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺 小僧☆はるかの気まぐれ日記』

http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

